

小平市教育振興基本計画検討委員会第5回会議要録

- 開催日時 令和5年1月24日(火) 午後2時～3時10分
- 開催場所 中央公民館 講座室2
- 出席状況 (委員) 出席11人
(市側) 教育部長、教育指導担当部長、地域学習担当部長、
教育総務課長、地域学習支援課長、学務課長、
教育施策推進担当課長、中央公民館長
- 傍聴者 2名

○会議の概要

1 委員長挨拶

副委員長より開会が宣言された。

2 議題

(1) 市民意見公募手続の実施結果について

事務局より、資料2に基づき、市民意見公募手続の実施結果について説明を行った。

[質疑応答・意見交換]

副委員長：6人より寄せられた計画素案のパブリックコメントについての感想や質問をお願いしたい。

委員：この意見は一般にも公表されるのか。会議の場だけのものか。

事務局：パブリックコメントで寄せられた意見への対応については計画の完成後、3月の発表段階にてホームページで公表する。

委員：パブリックコメント2番の教育委員会との意見交換の場について、現時点で決まっていることは何かあるか。

事務局：定期的に教育委員会と一般市民が意見交換や情報共有する場については具体的には進んでいないが、各計画の策定時に各所から必要な意見を収集している。今回は多数の意見を集めたいという観点からアンケートという形を取ったが、大事なご意見として承っておく。

副委員長：教育委員会の取組が一般市民の耳に届くような機会が少ないため、とても良い意見だと思う。そうした機会を増やす方向で考えてもらいたい。

(2) 第二次小平市教育振興基本計画案について

事務局より、資料3に基づき、第二次小平市教育振興基本計画案について説明を行った。

〔質疑応答・意見交換〕

委員長：前回会議で、社会教育と学校教育の関係として、91ページの地域総がかりの具体的な内容について質疑応答がなされていた。今回、コミュニティ・スクールと地域教育サポート・ネット事業を整理されたが、それについての意見はないか。

委員：92ページの基本的施策9の①にカッコ付けで基本的施策8-⑥再掲とあるが、良く読み込むと2段落目の「また伝統文化を体験する機会の確保」からの内容は基本施策8の家庭教育の支援に含まれるべきではないのか。なぜ8の⑥に含まれないのか。

委員長：基本施策8の⑥と基本施策9の①の関連について事務局の考えはどうか。

事務局：基本施策9の①の追記してある2行については、地域総がかりの場において推進する取組と考えて記述した。伝統文化等も含めて、地域で様々な体験する場を確保することで、子どもの想像力や感性といった豊かな心を育む取組と捉えたものである。

委員：伝統文化は何を指しているのか。例えばふるさと村での文化交流などであれば、未就学児も含まれるため、地域総がかりのみに記載するのはどうかと考える。同じ文面ではないものを「再掲」と記載するのもどうかと思うが、統一してはどうだろう。

事務局：検討する。

委員長：事務局での検討でよろしいか。

(意義なし)

委員：87ページの③多様な主体との連携の記載で、部活動の何が適正ではないのかわからないため、部活動の地域移行を言いたいのであれば、4行目の「部活動の適正化に向けた改善方策や」を削除した方がいいと思うがどうか。

委員長：部活動の適正化とは何が適正なのか、修飾語が入ればわかりやすくなると思うが、挿入するか削除するのか事務局の意見はどうか。

事務局：確かに、今の部活動が適正ではないような印象を与えかねない文面である。部活動の担当教員の負担と状況を踏まえたものであるが、検討する。

委員長：お願いします。他にあるか。

委員：用語解説が詳細に記載されておりわかりやすいため大変良いと思う。さらには巻末に誘導するための記号をつけるといい。

事務局：専門用語が難解であるという指摘から巻末に幅広い用語解説を掲載したのだが、検討する。

委員長：「個別最適な学び」など、教育関係者は固有名詞のように使用しているが、教育関係者や行政が当たり前のよう使用する言葉は市民には馴染みがないために後半に用語解説を付けた。他にはどうか。

委員：ホームページにおいて、現在の計画はPDFで3分割して掲載されているが、それではどこに用語解説があるかわかりにくい。ホームページに掲載する際に用語解説のみで掲載すると、それを開きながら別のPDFを見ることができ、市民も理解しやすい。

事務局：ホームページに掲載する際には見せ方も含めてわかりやすく編集するつもりでいる。

委員長：その他に何かあるか。無ければこれで質疑と意見交換は終了する。

3 その他

事務局より、今後のスケジュールについて説明を行った。

委員長：以上で議事を終了する。

最後に一言ずつ感想をいただきたい。

委員：学校として何ができるかを考えながら読んだ。校長会で周知し、学校の役割を果たしていこうと思う。

委員：中学校PTA連合会会長という立場で貴重な体験をさせていただいた。

委員：今後10年間、社会教育に何ができるかという示唆が汲み取れた。社会全体で取り組めるようにしたい。人生100年ということから高齢者も巻き込んで子どもたちを育てていけるといい。

委員：計画づくりへの参加は良い経験になった。変化の速い時代に合わせて適宜計画を変更する必要があるが、柔軟に取り組んでもらいたい。PDFデータでの公開でもいいが、HTMLによるマウスオーバーで用語が出るようにするなど、より市民が見やすくなるよう、ICTの時代として取り入れて発信してもらいたい。

委員：地域教育コーディネーターを務めており、大変勉強になった。小平地域教育サポート・ネット事業の推進について、学校を中心とした地域の緩やかなネットワークづくりをこれからも頑張っていきたい。

委員：小平市教育委員会のメッセージが詰まった計画となったが、これが周知されないと意味がない。完成後は小中学校内や保護者にも報告をすべきではないか。周知の方法を検討し

て欲しい。

委員：一般市民として参加したが貴重な機会だった。市民に伝わっていないと思われることが多く、どのように周知させるかが今後の課題である。ITをはじめ変化する中での柔軟な対応が求められる。

委員：社会教育分野で常に課題となるのが人材の確保である。担い手の育成や人材の掘り起こしの種を植えるのは学校教育であり、先生のちょっとした一言には意味がある。粘り強さや、しなやかさを持っていれば、地域で活躍できる人材になっていける。学校教育と協力しながら、この計画の期間が終了する10年後に地域をけん引する人材が育っていることを期待する。

委員：貴重な機会だった。完成後は周知が重要になってくるため、様々な媒体を使って市民に届けて欲しい。10年後の会議の際にはオンラインでも参加できるようなシステムを構築すれば、様々な市民の参加が期待できる。柔軟なより良い会議になることを期待する。

委員：様々なバックグラウンドを持つ委員の意見を聞くことは楽しみでもあり、勉強になった。教育委員会と一般市民の立場で10年に渡って関わってきた。委員の意見にそのような視点もあったのかと改めて気づかされた。第二次小平市教育振興基本計画がより良い10年後、100年後に繋がっていけばいいと思う。

委員長：目まぐるしい変化で予想がつかないが、教育には不易と流行がある。20年前に小平市がコミュニティ・スクールを導入した時のキャッチフレーズが「地域で育てよう健やかな子ども」であった。今期は「地域総がかりの教育」になっている。まさに教育は不易なもの、変わらないものであるということ。教育振興基本計画の中で変わらないものをしっかりとみつめながら、変化することについてはその都度マイナーチェンジをすることが必要である。周知について、必ずしも市民が気軽にインターネットを使っているとは限らないため、完成後には関係施設や公民館、図書館等にも案内を届けて欲しい。スマートフォンに関してHTML形式でリンクを貼るといったことなども方法として検討されたい。周知にはインターネットとアナログの両方の工夫が必要である。委員の活発な意見により計画策定が進んだことに感謝する。

委員長：以上で、第二次小平市教育振興基本計画検討委員会第5回会議を終了する。